

第44回 コンパス薬局藤沢 スキルアップ勉強会

2018.04.12 高木 千佳

『ゾフルーザ錠 10mg20mg』

シオノギ製薬

場所：コンパス薬局藤沢

参加者：沢先生、小俣先生、職員さん

熊山ともみ、薦田麻莉子、細川亜希子、高木千佳

抗インフルエンザウイルス剤はいくつかあるが、使用方法が患者さんにとって手間のかかるものが多い。

今回は3/14に発売されたゾフルーザについて勉強会を行った。

<効能・効果>

A型又はB型インフルエンザウイルス感染症

<用法・用量>

1. 通常、成人及び12歳以上の小児には、20mg錠2錠（バロキサビル マルボキシルとして40mg）を単回経口投与する。ただし、体重80kg以上の患者には20mg錠4錠（バロキサビル マルボキシルとして80mg）を単回経口投与する。

2. 通常、12歳未満の小児には、以下の用量を単回経口投与する。

用法及び用量の表

体重	用量
40kg以上	20mg錠2錠（バロキサビル マルボキシルとして40mg）
20kg以上40kg未満	20mg錠1錠（バロキサビル マルボキシルとして20mg）
10kg以上20kg未満	10mg錠1錠（バロキサビル マルボキシルとして10mg）

<特徴>

・キャップ依存性エンドヌクレアーゼ活性を選択的に阻害し、ウイルスのmRNA合成を阻害することで、インフルエンザウイルスの増殖を抑制する。

・1回の経口投与で治療が完結する。

<他剤との比較>

- ・薬価 1507.5 円～4789 円/日
- ・イナビル：2139.90～4729.80 円/日、リレンザ：588.4 円/日

<注意>

- ・副作用で下痢（1.3%）になることがある。
- ・因果関係は不明であるものの、抗インフルエンザウイルス薬投薬後に異常行動等の精神・神経症状を発現した例が報告されている。小児・未成年者については、異常行動による転落等の万が一の事故を防止するための予防的な対応として、本剤による治療が開始された後は、(1)異常行動の発現のおそれがあること、(2)自宅において療養を行う場合、少なくとも2日間、保護者等は小児・未成年者が一人にならないよう配慮することについて注意が必要。なお、インフルエンザ脳症等によっても、同様の症状があらわれるとの報告があるので注意が必要。

<考察>

- ・小児は体重が10kg以上であれば年齢制限が無いことがメリットである。
- ・体重が80kg以上の場合、服用量が倍になるため、お薬代が高くなるので注意が必要である。体重79kgと80kgの間で同じ服用量だった際の効果の差はそこまで大きくないということであった。
- ・1回の服用で治療が完結するため患者さんのコンプライアンスの向上が期待でき、薬を服用する期間が短いため患者さんの日常生活の負担が少ない。錠剤なので、吸入による吸い残しは無く、錠剤が飲める場合はイナビルよりゾフルーザは有用性が高いと考えられる。
- ・他のインフルエンザ治療薬は予防的に使用できるが、ゾフルーザは予防的に使用することは安全性・有効性が確立していない。保険適応が無い為、予防に用いられることがあれば疑義照会が必要となる。
- ・粉砕が推奨されない薬剤である。なので、錠剤が苦手な小児は服薬用のゼリーの使用が良いのではないかと考える。